

2025 年度

札幌医科大学外科専門研修プログラム

(ver 1.0)

2024 年 4 月 26 日

札幌医科大学外科専門研修プログラム管理委員会

1. 札幌医科大学外科専門研修プログラムについて

札幌医科大学外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること。
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること。
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること。
- 4) 外科専門医の育成を通して地域住民の健康・福祉に貢献し、地域医療を担うことができる人材を育てること。
- 5) 一方で外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること。

2. 研修プログラムの施設群

基幹施設（札幌医科大学附属病院）と連携施設（36施設）により専門研修施設群を構成します。本専門研修施設群では162名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修基幹施設

No.	名称	都道府県	専門研修プログラム 統括責任者	専門研修 指導医数	2022年 症例数
0	札幌医科大学附属病院	北海道	渡辺 敦	21	1327

専門研修連携施設

No.	名称	都道府県	連携施設責任者	専門研修 指導医数	2022年 症例数
1	JR 札幌病院	北海道	鶴間 哲弘	4	533
2	広域紋別病院	北海道	曾ヶ端 克哉	1	263
3	公益社団法人北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院	北海道	檜山 基矢	3	300

4	札幌ことに乳腺クリニック	北海道	増岡 秀次	5	192
5	札幌里塚病院	北海道	目黒 誠	1	173
6	札幌心臓血管クリニック	北海道	光島 隆二	1	130
7	札幌徳洲会病院	北海道	紀野 泰久	5	129
8	社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院	北海道	櫻田 卓	4	758
9	社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院	北海道	伊藤 寿朗	1	394
10	社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会記念病院	北海道	木村 文昭	1	169
11	社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院	北海道	中村 誠志	4	219
12	あかびら市立病院	北海道	渡部 公祥	2	64
13	社会医療法人友愛会 友愛医療センター	沖縄県	仲地 厚	2	31
14	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院	北海道	上原 浩文	4	663
15	市立札幌病院	北海道	中村 雅則	9	275
16	市立根室病院	北海道	川本 雅樹	3	125
17	市立函館病院	北海道	馬渡 徹	2	754
18	市立室蘭総合病院	北海道	佐々木 賢一	5	493
19	新ひだか町立静内病院	北海道	小松 幹志	1	62
20	砂川市立病院	北海道	佐々木 昭彦	3	379
21	滝川市立病院	北海道	久木田 和磨	1	206

22	医療法人溪仁会 手稻溪仁会病院	北海道	奈良岡 秀一	1	100
23	独立行政法人 国立病院機構帯広病院	北海道	八柳 英治	1	295
24	苫小牧消化器外科	北海道	宮本 茂樹	2	345
25	日本海員掖済会 小樽掖済会病院	北海道	向谷 充宏	3	589
26	東札幌病院	北海道	大村 東生	4	230
27	北海道済生会小樽病院	北海道	木村 雅美	1	272
28	北海道立子ども 総合医療・療育センター	北海道	縫 明大	4	143
29	北海道立北見病院	北海道	井上 聡巳	1	258
30	医療法人健康会 くにもと病院	北海道	國本 正雄	3	321
31	医療法人社団 土田病院	北海道	中村 幸雄	4	124
32	医療法人藻友会 札幌いしやま病院	北海道	石山 元太郎	3	2060
33	医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院	北海道	萩原 正弘	2	222
34	小樽市立病院	北海道	越前谷 勇人	5	691
35	医療法人社団 札幌道都病院	北海道	矢嶋 知己	9	638
36	独立行政法人 国立病院機構北海道がんセンター	北海道	安達 大史	2	315

*数値はすべて按分後

3. 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の年間 NCD 登録数は 12,590 例で、専門研修指導医は 166 名です。すべての専攻医に十分な経験数を保障するため、本年度の募集専攻医数は 20 名とします。(外科専門研修プログラム整備基準 5.5 参照)

4. 外科専門研修について

1) 研修期間と研修内容

- 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。
- 3年間の専門研修期間中、基幹施設で最低6カ月以上の研修を行います。
- 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

- 本プログラムにおいては、専攻医の多様な研修目標に対応すべく、以下7つのコース
 - ◇ 一般外科研修コース
 - ◇ 消化器外科研修コース
 - ◇ 心臓血管外科研修コース
 - ◇ 呼吸器外科研修コース
 - ◇ 小児外科研修コース
 - ◇ 乳腺外科研修コース
 - ◇ 大学院・留学コース

およびそれぞれにおいて3つの研修タイプ

- ◇ 基幹施設中心型
- ◇ 連携施設中心型
- ◇ 遠隔地医療型

を選択できます。自らの将来像に合わせて希望のコース・タイプを組み合わせ選択して下さい。

(例1) 一般外科研修コース・基幹施設中心型

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
研修 1年次	基幹施設での研修（札幌医科大学附属病院）											
	消化器・総合、乳腺・内分泌外科				心臓血管外科				呼吸器外科			
	選択は順不同、各領域を均等にローテート 高度救命センターで外傷症例も経験する											
研修 2年次	連携施設での研修											
	1年次に本人の意向を伺い、プログラム管理委員会で研修施設を決定する											
	必要症例クリアを目標とする 希望があれば小児外科や遠隔地医療もこの時期に選択できる											
研修 3年次	連携施設での研修											
	2年次と同一の施設／2年次とは異なる施設／専門連携施設／基幹施設											
	希望に合わせて、症例経験の幅を広げることや、 (サブスペシャリティに特化した研修を行うことが可能)											

(例2) 乳腺外科研修コース・基幹施設中心型

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
研修 1年次	基幹施設での研修（札幌医科大学附属病院）									コドモックル			
	消化器・総合、乳腺・内分泌外科						心臓血管外科			呼吸器外科			小児外科
	各領域の配分はフレキシブルに選択可 他領域症例を充足しつつ、専門領域についても研修を行う												
研修 2年次	連携施設での研修												
	消化器外科・乳腺外科												
	必要症例数のクリアが目標。他領域症例に不足があれば充足する												
研修 3年次	連携施設または基幹施設での研修												
	乳腺外科中心												
	専門性の高い研修を行う（サブスペシャリティ専門研修との連動も考慮）												

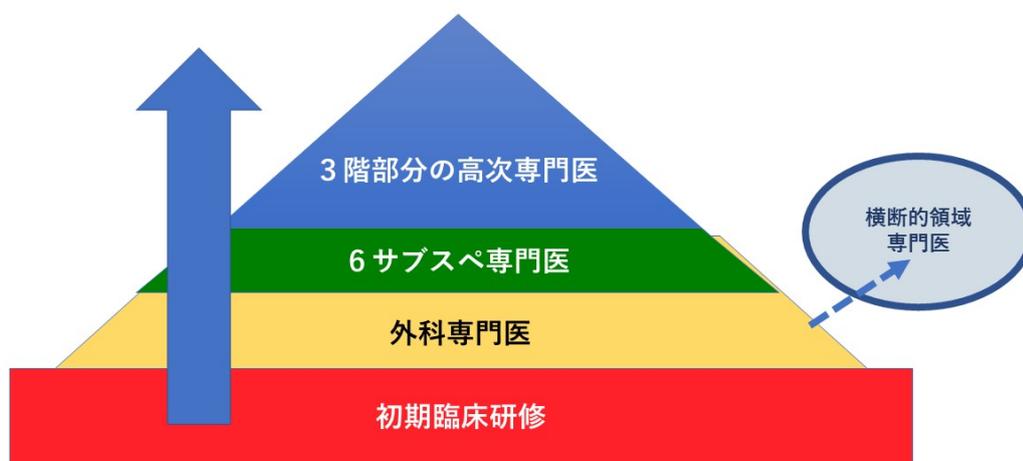
(例3) 心臓血管外科研修コース・連携施設中心型

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
--	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---

	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
研修 1年次	連携施設での研修											
	専攻医が研修の基盤とする連携施設での研修											
	連携施設毎の特色ある研修をおこなう											
研修 2年次	基幹施設（札幌医科大学附属病院）						連携施設／基幹施設					
	他領域の研修						他領域／専門領域の研修					
	研修基盤となる連携施設では経験することが難しい症例を中心に経験する 6か月以降は自由に選択可											
研修 3年次	連携施設での研修											
	心臓血管外科中心											
	連携施設毎の特色ある研修をおこなう (サブスペシャリティ専門研修との連動も考慮される)											

- 将来的なサブスペシャリティ専門研修との連動研修の可能性を想定していますが、2024年4月時点では連動について未定です。しかし、外科専門研修はその後の各サブスペシャリティ専門研修に直結することを基本姿勢として、各領域学会と日本専門医機構は調整を進めておりますので、本プログラムにおいてはいつでも連動に対応できるようなプログラムを設定しております。

外科系専門医制度グランドデザイン



- 本プログラムでは、専門研修期間中に大学院へ進むことや留学ができます。大学院・留学コースを選択すれば6か月以上の研究専任期間を設けることも可能です(本コースでは最大1年間の研究専任期間を想定しています)。また、臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。それら以外の場合でも最大6か月間の研究専任期間を設けることが可能です。(外科専門研修プログラム整備基準 5.11)
- 本プログラムは北海道医師養成確保就学資金制度(地域枠制度)に対応しております。卒業後義務年限における卒業3・4年目の地域勤務期間は、本プログラムの外科専門研修期間と大きく重なりますが、地域勤務期間中に配置可能な200床以上の連携施設が8施設、200床未満の連携施設が7施設あり、卒業5年目に基幹施設で研修することで、期間の延長なく、他の専攻医と同等な外科研修を行うことが可能です。
- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数と業績が必要です。(専攻医研修マニュアル-経験目標 2-を参照)
- 初期臨床研修期間中に任意の外科専門研修プログラムにおける外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例(NCDに登録されていることが必須)は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。(外科専門研修プログラム整備基準 2.3.3 参照)

2) 年次毎の専門研修計画

- 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修1年次では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修2年次では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修3年次では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

札幌医科大学外科研修プログラムの研修期間は3年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります(未修了)。一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に

向けた技能教育を開始します。また大学院進学希望者は、臨床研修と平行して研究を開始することができます。

3) 研修の週間計画および年間計画

基幹施設例：札幌医科大学附属病院（消化器・総合、乳腺・内分泌外科）

	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:30 病棟術前術後カンファレンス	○						
9:30-10:30 総回診	○						
7:45-8:30 教室員会議			○				
8:30-9:00 臨床抄読会			○				
9:00-12:00 病棟回診・検査・処置	○	○	○	○	○	△	△
9:00-12:00 外来	○	○	○	○	○		
9:00- 手術	○	○	○	○	○		
16:00-17:00 病棟回診	○	○	○	○	○		
17:00-17:30 領域別チームカンファレンス	○	○	○	○	○		
18:00-20:00 検診マンモグラム読影		○		○			
18:00-19:00 外科内科病理カンファ(月 1 回)		○					
18:00-19:00 領域別 cancer board(月 1 回)		○					

連携施設例 1 : 市立札幌病院

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:40 グループカンファレンス	○			○			
8:15-8:45 抄読会		○					
8:15-12:00 病棟業務	○	○	○	○	○	△	△
8:15-12:00 午前外来	○	○	○	○	○		
9:00- 手術	○	○	○	○	○		
9:30-11:30 総回診		○					
14:00-外科カンファレンス				○			
17:30- 消化器がんサージボード		○					
乳がんサージボード				○			
肺癌サージボード				○			

連携施設例 2 : 市立函館病院 (心臓血管外科)

	月	火	水	木	金	土	日
心臓血管外科							
8:00-8:30 朝カンファレンス	○	○	○	○	○		
8:00-10:00 病棟業務	○	○	○	○	○	△	△
10:00-12:00 午前外来	○		○		○		
9:00- 手術	○	○		○	○		
13:30- カテーテル治療			○				
16:30- 全体カンファレンス			○				
16:30- 循環器カンファ (月 1 回)			○				

連携施設例 3 : 国立病院機構帯広病院 (呼吸器外科)

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 抄読会、勉強会	○						
8:30-8:45 朝カンファレンス	○	○	○	○	○		
8:45-12:00 病棟業務	○	○	○	○	○	△	△
9:30-12:00 午前外来		○		○	○		

9:00- 手術	○		○				
17:00-17:30 夕回診	○	○	○	○	○		
17:30- 術前カンファレンス		○			○		

連携施設例 4 : 市立室蘭総合病院 (外科・消化器外科)

	月	火	水	木	金	土	日
8:30-8:50 ICU カンファレンス	○	○	○	○	○		
8:50-10:00 病棟業務 (回診)		○	○	○	○	△	△
10:00-12:00 手術		○	○	○	○		
13:00-16:00 手術	○	○	○	○	○		
8:50-12:00 外来	○						
17:30-18:00 勉強会		○					
18:00-19:30 内科外科病理カンファ		○					

連携施設例 5 : 北海道立子ども医療・療育センター

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 朝カンファランス	○	○	○	○	○		
8:30-10:00 病棟業務	○	○	○	○	○	△	△
9:00-12:00 午前外来	○		○		○		
9:00- 手術		○	○	○	○		
13:00-16:00 午後外来	○		○		○		
17:00-18:30 循環器心外カンファ		○					
12:30-13:30 腫瘍ボード(不定期)							

連携施設例 6 : 広域紋別病院

	月	火	水	木	金	土	日
7:30- TVレクチャー				○			
8:30-9:00 外科カンファレンス	○			○			
9:00-12:00 病棟業務	○	○	○	○	○	△	△
9:00-12:00 午前外来	○	○	○		○		

9:00- 定期手術	○	○					
16:00- 内科外科合同カンファレンス				○			
放射線診断読影カンファ(月1回)			○				

連携施設例7：札幌ことに乳腺クリニック

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:40 カンファランス				○			
8:30-9:00 細胞診	○	○	○	○	○		
9:00-11:00 午前外来	○	○	○	○	○	○	
14:00-16:00 午後外来	○	○	○	○	○		
10:00- 手術	○		○		○		
14:00- マンモトーム、針生検		○		○			
9:00-10:00 病棟回診、	○	○	○	○	○	○	
9:00-12:00 午前化学療法	○	○	○	○	○		
14:00-17:00 午後化学療法	○	○	○	○	○		

連携施設例8：札幌徳洲会病院

	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00 朝カンファレンス	○	○	○		○	○	
8:00-9:00 朝カンファレンス(内科・外科合同)				○			
9:00-12:00 病棟業務	○	○	○	○	○	○	
9:00-12:00 午前外来	○	○	○	○	○	○	
9:00-12:00 午前外来(専門:乳腺)	○	○	○	○	○	○	
9:00- 手術	○	○	○	○	○	○	
13:00-17:00 病棟業務	○	○	○	○	○	○	
13:30-16:00 午後外来(専門:肛門 / 静脈瘤・ソ径ヘルニア)	○			○			
13:30-14:30 病棟カンファレンス					○		

研修プログラム全体の年間計画

月	行事
4	新年度外科専門研修開始

	日本外科学会学術集会
5	日本呼吸器外科学会学術集会 日本小児外科学会学術集会
6	
7	日本消化器外科学会学術集会 日本乳癌学会学術集会
8	
9	
10	
11	日本臨床外科学会学術集会 次年度専攻医募集
12	研修プログラム管理委員会開催 日本内視鏡外科学会学術集会
1	次年度専攻医選考 次年度専攻医選考結果の発表
2	研修年次評価報告用紙の作成 日本心臓血管外科学会
3	研修年次評価・報告用紙の提出 研修終了書の発行

5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

専攻医研修マニュアルの到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性、社会性など）を参照してください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

（専攻医研修マニュアル-到達目標 3-参照）

- 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。
- 放射線診断・病理合同カンファレンス：手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比いたします。
- Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
- 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- 大動物を用いたトレーニング設備や教育 DVD などを用いて積極的に手術手技を学び

ます。

- 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。
 - 標準的医療および今後期待される先進的医療
 - 医療倫理、医療安全、院内感染対策

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらに得られた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

また、外科専門医取得のために、研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル-到達目標 3-参照）

- 日本外科学会定期学術集会に 1 回以上参加
- 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

（専攻医研修マニュアル-到達目標 3-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）

- 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。

2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

- 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとに的確な医療を目指します。
- 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。

3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること

- 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。

4) チーム医療の一員として行動すること

- チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
- 的確なコンサルテーションを実践します。
- 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。

5) 後輩医師に教育・指導を行うこと

- ・ 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

- ・ 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
- ・ 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
- ・ 診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは札幌医科大学附属病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテートして研修を行います。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに関して大変有効です。大学病院ではより専門的な外科診療を経験し、地域の連携病院では **common diseases** を中心とした幅広い外科診療を経験することで、外科専門医に求められる多彩な経験を積むことができます。札幌医科大学外科研修プログラムではどのコースを選択しても指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、札幌医科大学外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験

(専攻医研修マニュアル-経験目標 3-参照)

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病々連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- ・ 本研修プログラムの連携施設には、その地域における医療の中心となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が含まれます。そのため、連携施設での研修中に地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。
- ・ 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病々連携のあり方について理解して実践します。
- ・ 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADL の低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案し、時にその実施メンバーにも加わります。

10. 専門研修の評価について

(専攻医研修マニュアル-VI-参照)

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラ

ムの根幹となるものです。専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

1 1. 専門研修プログラム管理委員会について

(外科専門研修プログラム整備基準 6.4 参照)

基幹施設である札幌医科大学附属病院には、専門研修プログラム管理委員会と、1名の専門研修プログラム統括責任者および2名の副専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。札幌医科大学外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者(委員長)、副委員長、事務局代表者、外科の4つの専門分野(消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科)の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。

専門研修プログラム管理委員会定例会を年に1回以上開催し、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

1 2. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

1 3. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

1 4. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアルVIIIを参照してください。

1 5. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

1) 研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績を記載（NCD登録）し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年 1 回行います。

札幌医科大学外科専攻プログラム委員会にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

- 専攻医研修マニュアル
別紙「専攻医研修マニュアル」参照。
- 指導者マニュアル
別紙「指導医マニュアル」参照。
- 専攻医研修実績記録フォーマット
「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例は NCD に登録します。
- 指導医による指導とフィードバックの記録
「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

1 6. 専攻医の採用と修了

1) 採用方法

2025 年度募集に関しては、秋頃に日本外科学会・日本専門医機構より公開予定の日程で外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は今後発表される登録期間の間に、日本専門医機構に専攻医登録を行うとともに、プログラム管理委員会宛に所定の形式の「札幌医科大学外科専門研修プログラム応募申請書」、「初期臨床研修プログラム修了(見込み)証」および「履歴書」を提出してください。申請書は本冊子の巻末に貼付されています。不明点等あれば下記にご連絡下さい。

1. 札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座：
ウェブサイト <http://sapmed-surg1.jp/>
電話番号 011-611-2111
2. 札幌医科大学心臓血管外科学講座：

ウェブサイト <http://sapmed-geka2.jp/>

電話番号 011-611-2111

3. 札幌医科大学呼吸器外科学講座：

ウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/kokyukigeka/index.html>

電話番号 011-611-2111

4. 札幌医科大学臨床研修センター：

ウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/byoin/center/index.html>

電話番号 011-688-9486

採否は本人に文書で通知します。応募者および選考結果については札幌医科大学外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

2) 修了要件

本プログラムの終了要件は、プログラムを構成する施設群で通算 3 年以上の臨床研修をおこなない、外科専門研修プログラムの一般目標、到達（経験）目標を習得または経験することです。外科専門研修プログラムを修了することにより、外科専門医認定試験の受験資格を得ることができます。

申請書類送付先

札幌医科大学外科専門研修プログラム管理委員会

〒060-8543

札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科

担当 奥谷浩一

E-mail : okuya@sapmed.ac.jp

TEL : 011-611-2111

2025 年度
札幌医科大学外科専門研修プログラム申請書

年 月 日

札幌医科大学外科専門研修プログラム
プログラム統括管理者 渡辺 敦 様

下記のとおり札幌医科大学専門研修プログラムでの研修を希望しますので、関係書類を添えて申請致します。

記

1 氏名等

氏 名 _____ (印)

生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

2 初期臨床研修プログラム修了(見込み)証

3 履歴書